



南帷子小にとって大切な“あれ”

南帷子小学校長 堀田 誠

右の作文は、「わが子のあゆみ No.477（岐阜県 PTA 連合会発行）」の「子の思い 親の思い 教育の窓」のコーナーに掲載されたものです。若きし頃、南帷子小を訪れると、「わんぱく山」という大きな文字を見ることができ、その時は、「わんぱくでもいい。たくましく育てほしい」という某会社の CM を連想したのは、自分だけでしょうか。校内にも、かつての活動の様子や歴史が分かるパネルもあります。古い掲示物はどんどん新しいものに更新されるものですが、わんぱく山の掲示物は大切に残されています。それだけ、南帷子小とわんぱく山の関係は深いものだと言えます。

わんぱく山で育った卒業生が、今では南帷子小に子どもを通わせている親になり、当時の良い思い出を子どもにも体験して欲しいと、昨年度から休日にわんぱく山での活動を始めました。また、岐阜県立森林文化アカデミーの萩原ナバ裕作氏のご協力ご指導もあり、5年生が総合的な学習の時間を使って、わんぱく山の遊具づくりを行ったり、他学年でも算数の特別授業を行ったりしています。かつては、青空、昼休みの時間に自由にわんぱく山で活動できたそうですが、当時は、あまり問題視されなかった安全面への配慮から、現在は、十分な準備をした上での活動を行っています。また、当時とは社会や価値観も多様化し、当然子どもの質も変わってきました。「たくましさ」という点で考えれば、いつポキンと折れても仕方ないほどの繊細な心を持つ子が多くなりました。体力的にも随分と落ちている様に感じます。そんな時代だからこそ、以前よりは細々とした活動となりましたが、わんぱく山と言う存在が、南帷子小にとって大切な“あれ”なのかもしれません。

今年も、わんぱく山の麓で運動会が開催されます。子どもたちの限りない力を是非とも応援してください。

わんぱく山

ぼくたちの学校には、わんぱく山という山があります。わんぱく山は、南帷子小学校の誇りで、みんなから愛される山です。

わんぱく山では、毎年「秋見つけ」や「遊具づくり」など、様々な活動をしています。ぼくたちは、五年生の時に、森林文化アカデミーの方々に教えていただきながら、山で自然いっぱい遊具を作りました。最初は木や竹を切ることから始め、一日半かけて遊具を完成させました。完成した遊具は、全校のみんなに紹介し、一緒に遊びました。遊び終わった時に、たくさんの人たちから「楽しかった」「また遊びたい」という喜びの声を聞きました。遊具をがんばって作ってよかったなと思いました。

わんぱく山はぼくたちの宝物です。ぼくたちが卒業しても、わんぱく山での活動が続き、来年入ってくる一年生にも「わんぱく山は、こんなにすごいんだな」と思われ続ける山であってほしいなと思います。



給食に出たスイカの種から育ったスイカ